



ツネログ #14 2025年10月号

皆さん、こんにちは。

SAMURAI BLUE(日本代表)のアメリカ遠征は1分け1敗という結果になりました。0-0で引き分けたメキシコ代表との初戦は、レベルの高い相手に対してプレー強度、プレッシングのはめ方、チャンスの創出など全てにおいてポジティブな面が目立ちました。オークランドからコロンバスに移動した中2日でのアメリカ代表との2戦目は先発メンバーを全員入れ替えて臨んだ中、今度は相手に全て上回られてしまうような試合内容。0-2での敗戦でした。勝てなかったこと、得点が奪えなかったことは残念でしたが、来年のFIFAワールドカップ26の開催地の一つであるアメリカで試合ができたことは大きな収穫となりました。

西部のオークランドから東部のコロンバスへは飛行機で4時間半掛かり、3時間の時差が生じます。できるだけ選手たちの疲労を取るべく、チャーター機の中でも電気器具を使ったリカバリー、疲労回復を目的とした食事の摂取などといった本番を想定したシミュレーションができました。私も代表チームと一緒に移動しましたが、選手、スタッフは本大会への意識を持って取り組んでくれていました。いろいろと試したディテールの部分がどのようにパフォーマンスに直結したのか、今後はそのフィードバックをもとにディテールをさらにブラッシュアップしていければいいと思っています。これからベースキャンプ地の選定を含め、包括的に本大会への準備を迅速に進めていきます。

今年度殿堂入りした元日本代表の井原正巳さん、元日本女子代表監督の鈴木保さん、元日本女子代表の半田悦子さん、木岡二葉さん、高倉麻子さん、野田朱美さんの掲額式典がJFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」で行われました。

日本代表が初めて出場した1998 FIFAワールドカップフランスでキャプテンを務めた井原さんにはダイナミックなイメージをずっと持っていました。映し出された当時の写真、映像を目にした際、高校生のころ井原さんのプレーをよく見ていたことを思い出しました。ロングキックのフォームも真似して取り入れたものです。井原さんの偉大な足跡をたどりながら、自分の原点を思い起こす時間ともなりました。

そして、鈴木さん、半田さん、木岡さん、高倉さん、野田さんは、なでしこジャパン(日本女子代表)の創成期を支えてくれた皆さんです。

笑顔あふれる現役時代の写真が特に印象的でした。野田さんの話では「たとえ状況が良くなくとも、笑顔でプレーすれば相手にプレッシャーを掛けられる」という教えが所属先の読売サッカークラブ女子・ベレーザ(当時)にあったということ。それが代表チームにも浸透していき、今のなでしこジャパンにおいてもしっかりと受け継がれている気がしています。

先輩たちの苦労があって今があります。ぜひ選手の皆さんにも「なでしこの原点」を知ってもらうとともに、そのマインドを胸に刻んでほしいなと思います。

公益財団法人日本サッカー協会 会長

宮市恒靖



会長の活動報告

2025年8月28日～9月18日(抜粋版)

8/29(金)

JFA Biz Day (blue-ing!)



「サッカーを題材に、ビジネス発想を覚醒させよう」というテーマで、小澤隆生理事をゲストに迎え、サッカーに関心のあるビジネスパーソンを対象にワークショップを開催しました。今後も多様な人材を巻き込めるイベントを開催していければと思います。

9/15(月)

メニコンカップ2025日本クラブユースサッカー 東西対抗戦(U-15) (新日本ガス球技メドウ)



U-15世代のオールスター戦とも言えるメニコンカップを視察。所属チームと異なるメンバーで戦う経験は出場している選手たちにとっても大きな刺激になっています。1995年から31回の長きにわたり大会を協賛いただいているメニコンさまに厚くお礼申し上げます。

9/2(火)

WEリーグ実行委員会(JFAハウス)

9/6(土)

国際親善試合 SAMURAI BLUE vs. メキシコ代表 (アメリカ/オークランド)



FIFAワールドカップ26の開催地となるアメリカで強化試合を行いました。ベースボールスタジアムで開催されたメキシコとの対戦はスコアレスドローとなりましたが、本番前にこれまでの大会にはないアメリカらしい状況を経験できたことは前向きに捉えています。

メキシコサッカー連盟との パートナーシップ協定締結調印式(アメリカ/オークランド)



JFAにとって北中米カリブ海サッカー連盟(Concacaf)初となるメキシコサッカー連盟とのパートナーシップ協定を締結しました。メキシコのサッカーから学ぶ点は非常に多く、さまざまな分野で連携を図っていきたいと考えています。

9/16(火)

第21回日本サッカー殿堂掲額式典 (blue-ing!)



日本代表の中心選手として長く活躍された井原正巳さん、そして女子サッカーの黎明期を支えてこられた鈴木保さん、半田悦子さん、木岡二葉さん、高倉麻子さん、野田朱美さんを日本サッカー殿堂に迎え入れることができました。あらためて皆さまのご功績に心より敬意と感謝の意を表します。

9/17(水)

クロアチアサッカー連盟との パートナーシップ協定締結調印式(JFAハウス)



今年のフットボールカンファレンスでも講演いただいたクロアチアとパートナーシップ協定を締結しました。クロアチアはこれまで育成年代の大会招聘や遠征などで多くの実績があり、国際大会でも継続して好成績を収めています。今後は代表チームや指導者、審判、スタッフの交流などを進めていきます。

9/9(火)

国際親善試合 SAMURAI BLUE vs. アメリカ代表 (アメリカ/コロンバス)



メンバーを入れ替えて臨んだ試合は、0-2での敗戦となりました。試合内容は満足のいくものではありませんでしたが、西部から東部へ飛行機での移動が4時間半、時差が3時間というワールドカップ本番を見据えたチャレンジができたことは収穫でした。本大会まであと9カ月、良い準備を進めていきます。

9/18(木)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス

2025年度第10回理事会が9月18日(木)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。



報告事項

新たに1人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要なProライセンスについて、FC岐阜を指導している津田恵太氏が同ライセンスを取得しました。
これで、2024年度の受講生20人全員が認定され、認定者総数は601人となりました。

Information

JFAとポケモンが JFAソーシャルバリューパートナー契約を締結

JFAは株式会社ポケモンとJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結しました。本契約を機に、JFAチャレンジゲーム「めざせファンタジスタ!」をポケモンデザインにリニューアルするほか、元日本代表の柏木陽介さんと柿谷曜一朗さん、元日本女子代表の宮間あやさんがメッセンジャーに就任し、エースバーンと一緒にテクニクを披露する特別な映像に登場します。さらに新たな取り組みとして、JFAに登録している第4種(U-12年代)チームに「炎のポケモンピブス」を寄贈するなど、ポケモンを通してサッカーに親しめる企画を実施していきます。



JFAとポケモンは、これまでJFAキッズアンバサダー「エースバーン」の幼稚園・保育園訪問や、ポケモンデザインによるJFAチャレンジゲーム「めざせクラッキ!」などを展開してきました。今後はこれらの活動をさらに拡大し、サッカーとポケモン、それぞれが持つ力をかけ合わせてサッカーを楽しむ子どもたちの挑戦を後押しします。※8/31発表

©2025 Pokémon. ©1995-2025 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémon は任天堂・クリーチャー・ゲームフリークの登録商標です。

【アディダス・JFA共同プロジェクト「HER TEAM」】 2025年度募集開始

JFAとアディダス ジャパン株式会社は、中学生年代の女子サッカーチームの創設を支援する共同プロジェクト「HER TEAM」の2025年度の募集を、9月1日より開始します。

日本では中学生年代の女子サッカーチームが男子チームのわずか2.8%にとどまっており、女子選手の約5人に1人が13歳になると競技を離れている現状があります。そこで、2020年に本プロジェクトを発足、メンバー募集のための告知ツールやユニフォームの提供、サッカークリニックやチーム情報交換会の開催、事務局によるチームサポートなどを実施して、これまでの5年間で36都道府県計88チームの創設を支援してきました。2025年度のサポート期間は2025年12月1日～2028年3月31日で、10月31日に募集を締め切った後、審査を行い、支援チームを発表します。※9/13発表

FIFAE World Cup 2025™出場を目指す サッカーe日本代表が決定

JFAは、FIFAが主催する公式eスポーツ・サッカーの国際大会「FIFAE World Cup 2025™」に向けて活動する、日本代表選手4名を決定しました。
選考は、国内40万人以上が参加したオンライン予選を経て9月6日にblue-ing!で行われた「JFAサッカーe日本代表選抜大会2025」で実施。コンソール部門(2対2形式)では、チーム「DRX」として出場したAx選手とTess選手が優勝し、9月24日～27日に開催される「FIFAE World Cup 2025™」地域予選(東アジア・オセアニア)の出場権を獲得しました。また、モバイル部門(1対1形式)を制したのはSOUSHUN選手で、10月2日～5日に行われる同地域予選への出場が決まりました。なお、コンソール部門のサポートメンバーとしてTakaki選手も選出されました。
地域予選の上位3カ国には、12月にサウジアラビアで開催されるFIFAE World Cup 2025™本大会への出場権が与えられます。※9/6発表

【JFA×日本財団 子ども未来プロジェクト】 2026年度「キッズピッチ」を設置する組織を公募

JFAは、公益財団法人日本財団と共同で立ち上げた「JFA×日本財団 子ども未来プロジェクト」の一環として、「キッズピッチ」の整備事業を実施します。この活動は、子どもたちが安全に、安心してボール遊びをしたり、スポーツを楽しんだりする場や機会を提供するとともに、障がいの有無や年齢・発達の違い、国籍などの違いを超え、全ての子どもたちが別け隔てなく健やかに成長できる環境を広げることを目的に行う活動です。遊び場となるキッズピッチを運営する組織を募集し、その活動を推し進めていきます。
キッズピッチは一般社団法人日本ケージボール協会の協力の下で開発され、1基の大きさは幅9m×奥行き12.6m×高さ2.8m。2025年度は5カ所に設置することが決まっています。今回の公募は2026年度の設置先(5カ所/予定)を選定するためのもので、公募期間は9月8日から10月17日、応募資格は日本国内に拠点を置き、この活動に賛同する団体・組織となります。※9/8発表

JFAオフィシャルレフェリーグッズ 10月上旬から販売開始

JFAは2025年10月上旬より、「オフィシャルレフェリーグッズ」の販売を開始します。4級から1級審判員まで、試合でレフェリングする際に必要な10種類、全14アイテムを展開します。

商品化にあたっては、審判経験者へのヒアリングを実施し、トスコインや副審フラッグ、マッチレコードシート、ホイッスルホルダーなど、特に使用頻度の高い用具を中心にラインナップ。これまでJFAでは制作していなかったレフェリーグッズを大幅に拡充させました。グッズは全国のサッカー専門店やスポーツ店のほか、JFAオフィシャルオンラインストア「JFA STORE」で販売します。なお、今回発売する全商品に「RESPECT」のロゴを入れています。JFAはこれらのレフェリーグッズを介して、サッカーに関わる全ての人々に「リスペクト=大切に思うこと」の精神が広く浸透していくことを願っています。※9/13発表

その他の主なニュース

・「審判交流プログラム」カタール、サウジアラビアより審判員を招聘(9/10発表)



動画も公開中!

キリンホールディングス常務執行役員

山形光晴さんを マンマーク!



第14回はJFAオフィシャルトップパートナーのキリンホールディングス株式会社、山形光晴常務執行役員をゲストに迎えます。キリンは1978年からサッカー日本代表を応援し2023年1月からオフィシャルトップパートナーに。50年近くに及ぶ両者の深い結びつきについて、そしてサッカーがつなぐ未来について語ります。

よるこびが、サッカーの未来をつなぐ

宮本 山形さんとの思い出と言えば、やっぱり3年前のFIFAワールドカップカタール。スペイン代表に勝利してパートナーの方たちとSAMURAI BLUE(日本代表)のユニフォームを着たまま(宿泊先のホテルから近い)市内の市場に向かったら、世界中の人がわれわれのところに集まってきたんですね。

山形 ジャパン、コングラチュレーション!と声を掛けられて、私の体重が軽そうだと思われたのか肩車の次に胴上げまでされてしまいました(笑)。

宮本 人と人をつなぐ。キリンさんのコーポレートスローガン「よるこびがつなぐ世界へ」がそこにありました(笑)。

山形 ありがとうございます。私自身、学生のころサッカーをやってきて、本当にサッカーが大好きで。輪が広がるというサッカーの魅力を、サッカーが持っているパワーを現地であらためて感じる事ができました。

宮本 キリンさんと日本サッカー協会(JFA)の関係はもう47年になりました。

山形 1978年当時、JFAさんが入っていた岸記念体育会館と山手線を挟んで弊社が原宿側にありまして、スポンサーを探していらっしゃるときに「あそこにキリンがあるじゃないか」と見つけていただいてご縁が始まったと聞いています。

宮本 日本のサッカーがまだ弱かったころからずっとサポートをいただいて。振り返ってみるとそのご支援のおかげで例えば育成年代の合宿が実施できたり、2002年のワールドカップ日韓大会(の開催)にもつながったというわけじゃないですか。キリンさんのサポートをなくして、日本サッカー(の発展)はなかった。今の立場になってつくづくそう感じています。

山形 キリンカップサッカー、キリンチャレンジカップをやらせてもらっている中で日本代表の強化が当然最優先ではありませんし、2050年までにワールドカップで優勝するという目標に向けてしっかり応援していくというのが大前提としてあります。もう1つ付け足させていただくと、キリンカップサッカー、キリンチャレンジカップで初めて日本代表の試合を観たという方もたくさんいらっしゃると思うんです。そういう意味ではファンが増えて、試合(の観戦)を通して楽しい気持ちを持っていただくこと、元気になっていただくことへのお手伝いができればいいと思っています。

宮本 キリンさんのサポートのおかげでこれまでも日本にいるんなチームを招聘できましたし、継続して代表の強化に役立たせていただいています。ファンの方を増やしていく、喜んでもらうところにおいても本当にわれわれと一体となって盛り上げてもらっているという感覚があります。

山形 特にうれしかったのが、2023年3月24日に国立競技場で行われたウルグアイ代表とのキリンチャレンジカップです。新型コロナウイルス感染症対策を

実施した上で、全席声出し応援が可能となったんですね。ファン、サポーターの皆さんが声を出して応援する光景を目にして、ようやくサッカーのある日常が戻ってきたなってジーンとききました。

宮本 そして2023年からはオフィシャルトップパートナーとして、全ての代表カテゴリー、選手育成、指導者養成にご支援いただくとともに、ダブルピラミッドのもう一つの「生涯スポーツ」、つまりはウェルビーイングの領域においてもご尽力いただいています。子どもから年配の方まで参加できるウォーキングフットボールの「キリンファミリーチャレンジカップ」もその一つです。

山形 子どもたちもおじいちゃん、おばあちゃんも一緒になってサッカーを楽しめる、笑顔になれる。みんなでハイタッチしたり、よくやったねって声を掛け合ったりして、周りの皆さんとつながりを深めていけるのに(ウォーキングフットボールは)すごくいいと思うんです。まさにグラスルーツと言いますか、地道な活動かもしれませんが、一人でも多くの方にそういった体験をしていただけたらという思いがわれわれとしてもあります。

宮本 能登半島復興支援においても「JFA・キリンビッグスマイルフィールド」として一緒にやらせていただいています。2011年の東日本大震災における復興支援でサッカーを通じて元気をもらったと言ってくれた女の子が、今度はボランティアで参加してくれていましたよね。笑顔になった思い出が彼女の心に残っていて、そして今度は自ら支援活動に動いてくれる。これもサッカーの素晴らしいところだなんて感じました。

山形 うちの社員も「JFA・キリンビッグスマイルフィールド」に参加して、皆さんの笑顔を見たり、直接、感謝の言葉をいただいたりすることがすごくモチベーションになっているんですね。JFAさんと一緒になってやらせていただいていることで、企業として仕事をしている中では簡単には手に入らないような経験ができて、ありがたいと思っています。

宮本 ぜひこれからも日本サッカーと一緒に盛り上げていただくとともに、自分たちだけでは難しい社会課題への取り組みを含めて力を貸していただければありがたいです。

山形光晴(やまがた・みつはる)

1976(昭和51)年生まれ。埼玉県出身。
慶應義塾大学経済学部卒業後、プロクター・アンド・ギャンブル(P&G)社でブランドマネジメントを担当。2015年にキリンに入社、その後キリンビバレッジでマーケティング部長として活躍。17年キリンビールに異動し、マーケティング部長、商品開発研究所長、事業創造部長などを歴任。22年よりキリンホールディングス常務執行役員。ブランド戦略やデジタル戦略を統括し、「晴れ風」などのヒット商品を生み出すなど、キリンのマーケティング改革を牽引。キリンビール株式会社副社長執行役員も兼任。

※次号は2025年11月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

